

国分寺市教育委員会議事録・第11号

会議の種類 第3回国分寺市教育委員会臨時会
会議の日時 令和元年8月8日(木) 午後1時30分
会議の場所 国分寺市立教育センター 5階 教育資料室

会議の出席者

(教育委員会)

教育長	古 屋 真 宏
教育長職務代理人	富 山 謙 一
委 員	戸 塚 晃
委 員	佐久間 博 美
委 員	大 木 桃 代

(説明員)

教育部長	堀 田 順 也
教育総務課長	日 高 久 善
学校指導課長	富 永 大 優
統括指導主事	大 島 伸 二
指導主事	關 友 矩
指導主事	野 村 宏 行
選定資料作成委員長	東 川 信 幸
教科用図書調査研究委員会(中学校)委員長	

野 口 大 介

調査研究委員会(小学校)委員長(国語(書写))

畑 和 男

調査研究委員会(小学校)委員長(社会(地図))

出 町 桜一郎

調査研究委員会(小学校)委員長(算数)

矢 島 英 明

調査研究委員会(小学校)委員長(理科)

竹 泉 稔

調査研究委員会(小学校)委員長(生活)

吉 田 健

調査研究委員会(小学校)委員長(音楽)

前 多 紀 子

調査研究委員会(小学校)委員長(図画工作)

鈴 木 恒 雄

調査研究委員会(小学校)委員長(家庭)

越 山 宗 治

調査研究委員会(小学校)委員長(体育)兼

特別支援学級設置校長会長

茂 呂 雅 仁

調査研究委員会(小学校)委員長(外国語)

藤 原 栄 子
調査研究委員会（小学校）委員長（特別の教科 道徳）
橋 本 弥 記

（事務局）

書 記

山 田 隆 史

傍聴人 25人

〔開会と署名委員の指名〕

午後1時30分、教育長は開会を宣言し、署名委員として1番戸塚委員、3番大木委員を指名した。

〔教育長等の報告〕

教育長 こんにちは。午前中の教育委員会定例会に引き続きまして、お集まりいただきましてありがとうございます。

本日は、教科用図書の採択ということで議事を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

〔議事〕

1 議案第40号 令和2年度使用中学校教科用図書の採択について<教育長提出>

(議案の内容と説明)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第21条第6号に基づき、教育委員会で決定する必要がある。

關指導主事 小中学校通常学級の教科用図書の採択は、4年ごとに行われており、本来、中学校の「特別の教科 道徳」を除く各教科の教科用図書が採択替えの年度となります。しかし、来年度が新学習指導要領に基づく教科用図書採択の年となるため、平成30年度検定においては、新たな図書の申請がありませんでした。よって、今回は現在使用している教科用図書の課題を調査し、次年度1年間の使用に問題がないかを検討してまいりました。

各中学校の校長又は副校長が調査研究委員となり、現行の採択教科用図書について調査研究を実施し、6月12日の教科用図書調査研究委員会で検討を行いました。そして、その結果について、6月20日までに調査研究報告書を提出していただきました。7月24日に開催した教科用図書選定資料作成委員会では、その報告書をもとに調査研究委員長からの説明を受け審議を行いました。この後、選定資料作成委員会からの報告をさせていただきます。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

教育長 それでは、中学校の各教科の教科用図書につきまして、選定資料作成委員長から資料作成の経過等について御報告をお願いいたします。

選定資料作成委員長 選定資料作成委員会では、中学校の調査研究委員長から調査研究の内容について御説明いただきました。その中では、これまでの4年間の実績を踏まえ、検討を進められてきたことを御報告いただきました。そして、調査研究委員会としては現行の採択教科用図書について、大きな課題はないと判断した旨の報告をいただきました。選定資料作成委員会といたしましても、資料及び説明から全員一致で中学校各教科については、現行の採択教科用図書を継続して使用することが適当であると確認し、選定資料を作成いたしました。

(意見・質疑の要旨)

教育長 改めて確認をしますが、調査研究を行う中で、現場の先生方からこの部分は使いつらい、こちらには課題がある等の御意見はなかったと捉えてよろしいのでしょうか。

教科用図書調査研究委員会(中学校)委員長 そのように捉えていただいて構いません。

教育長 教科用図書の内容の変更等はなかったのでしょうか。

教科用図書調査研究委員会(中学校)委員長 移行措置に関しましては順番が変わる等

はありますが、その中で対応が可能と見込んでおります。

教育長 移行措置の中では対応が可能だということで、内容的には特段の変更はなかったということですね。

議案第40号「令和2年度使用中学校教科用図書の採択について」につきましては、現行の採択教科用図書を継続して採択するというので一覧が付されておりますが、こちらを採択してよろしいでしょうか。

(採決)

原案どおり可決（全員一致）

2 議案第41号 令和2年度使用小学校教科用図書の採択について＜教育長提出＞

(議案の内容と説明)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第21条第6号に基づき、教育委員会で決定する必要がある。

關指導主事 市立学校における教科用図書の採択は、義務教育諸学校の教科用図書の無償に関する法律及び同無償措置に関する法律、同施行令、同施行規則に則し行います。今回は、小学校の通常の学級で使用する教科用図書について、採択替えを行います。

それでは、採択までの流れについて説明させていただきます。まず、5月10日から5月29日までに各学校において学習指導要領の目標及び国分寺市が示す二つの調査の観点である内容及び構成上の工夫をもとに調査を行いました。

次に、6月4日から7月12日までの間に各学校の調査報告書などを参考にしながら、教科ごとに教科用図書調査研究委員会を各教科2回から3回開催し、送付された見本本全てについて調査研究を行いました。そして、7月24日に教科用図書選定資料作成委員会を開催し、全教科書について協議を行いました。委員会では令和2年度使用教科用図書調査研究委員会報告書及び教科用図書見本本、市内教科書展示会で寄せられた市民アンケート結果などを資料として協議を行いました。

教科用図書選定資料作成委員会の協議における観点は、A内容、B構成上の工夫の2観点とし、総合検討結果を「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、「国分寺市で使用するのに適当である」、「国分寺市で使用するのに適当に至らない」の3段階で示しました。

次に、市民アンケート結果の概要を御報告いたします。この市民アンケートは教育センター及び本多公民館、恋ヶ窪公民館、もとまち公民館の三つの公民館において、6月14日から7月4日まで行った法定展示会及び市内展示会で御提出いただいたものです。総数は92件で、各教科の内容や表記に関する御意見などをいただきました。これらの市民アンケートについては、写しを既に各委員にお渡ししてあります。

令和2年度使用小学校教科用図書の採択に関する審議をよろしくお願いいたします。

教育長 小学校教科用図書の採択にあたりましては、これまで各学校や調査研究委員会、さらに選定資料作成委員会において様々な研究や協議が行われてまいりました。本日は、まずその研究や協議の内容を御報告いただきます。

併せて、市民の皆様からも92件という大変多くのアンケートにより、御意見をいただいております。これらの資料等をしっかりと参考にさせていただきながら、併せて教育委員の皆様方それぞれのお考えに基づいて、教育委員会が責任を持って採択を行っていきたいと考えております。教育委員の皆様方におかれましては、よろしくお願いいたします。

それでは、4月25日開催の教育委員会定例会で承認された要項に従って、審議してまいります。選定資料作成委員長から報告をいただきますが、調査研究委員会委員長もおりますので、教育委員の皆様方には報告に引き続きまして、御意見や御質問を伺っていただきたいと思います。

(1) 国語（国語）

（選定資料作成委員長からの説明）

選定資料作成委員長 国語については、3番の教育出版、4番の光村図書出版が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の東京書籍、2番の学校図書が「国分寺市で使用するのに適当である」といたしました。

東京書籍は良い点として、各学年に主要な物語教材が扱われている、単元で身に付けたい力が明記されている、ノートの指導が充実している点があります。小単位による構成が多く指導が細切れになりやすいということが課題として出されました。

学校図書は、良い点として、5年に「注文の多い料理店」を教材とするなど分かりやすい教材が使われています。しかし、3年生の説明文の教材が長文であること、物語文の挿絵で登場人物の表情が描かれていて挿絵でイメージを膨らませ過ぎてしまっていることが課題として出されました。

教育出版は、良い点としてイラストを少なくして、言葉を大切にしようとしている、資料をもとに自分の考えたことを発言する教材が各学年に配置されている点が挙げられています。それに対して、関連する図書の紹介が少ないことが課題として出されました。

光村図書出版は、良い点として古典作品が豊富である、新しい教材と定番教材のバランスが良い、読解力を伸ばす工夫がされていることが挙げられます。6年生の「やまなし」について、解釈が難しいという調査委員会からの意見がありましたが、選定資料作成委員会では子どもたちが自由に発想を広げることができるという肯定的な意見がありました。図書の紹介が多いことや、プレ教材、本教材の流れの配置等からは主体的な学習等に適切であると考えられます。

（意見・質疑の要旨）

大木委員 光村図書出版で、高学年には難しい物語教材があるということで、先ほど6年生の「やまなし」が例として挙げられておりましたが、こちらは現在の教科書でも採択されているお話だと思います。このようなことが御意見として挙げられた点につきましては、何か問題などがあったのでしょうか。

調査研究委員長（国語（書写）） 近年、若い教員が増え、指導力は教員によって多少の差がある中で、「やまなし」を扱うときに経験のない教員にとっては難しいだろうという話から出てきたものでございます。教材に課題があるということではありません。

教育長 それでは、御説明いただいた報告あるいは配布された資料等に基づきまして、委員の皆様方それぞれからお考えをお話しいただけたらと思っております。順番で富山委員からお願いいたします。

富山教育長職務代理者 まず、教育出版の「ひろがる言葉 小学国語」ですが、内容面から見てみますと、情報の使い方あるいは自分から自分の考え方を発信する学習材が各学年に適切に配置されていると思いました。また、学習の進め方ですが、問題解決学習として、考え、判断し、表現し、課題を明確にするという点で、見通しを持とう、振り返ろう

など、学ぶ道筋が段階的に示してあるのは扱いやすいだろうと思いました。構成上の工夫としては、巻頭に学年で学ぶ内容が領域別に載っており、学ぶ内容の全体像を把握しやすい工夫もあったと思います。一方で、先ほどの説明にもありましたが、関連する図書の紹介は少ない点は課題であると思いました。

光村図書出版は、委員長から説明がありましたように、古典作品が豊富である、多くの図書の紹介がある、新しい教材と不易の教材がうまく調和しているという印象を持ちました。また、国語は語彙を増やしていくことがとても大切ですが、言葉を増やす工夫がなされていることも良いと思いました。さらに、絵や写真と文章を対比させて読めるような工夫が全学年にあったと思います。

先ほど、大木委員から質問がありました「やまなし」の件については、私も難しいなとは思いました。しかし、国分寺市の子どもたちを考えますと、むしろあったほうが国語的な発想あるいは広い発想が出てくる良い教材なのではないかとも思いました。若い先生が増えているからというお話がありましたが、若い先生の場合には学校内のベテランの先生とペアを組むことで必要技術が伝わっていくような学校マネジメントの工夫があれば、学びがいのある良い教材が国分寺市の子どもたちに提供できるので、これはこれで良いのだと私は思いました。

それから、光村図書出版の構成上の工夫の部分では、新しい学習が始まる際、次のページの扉のところに導入文がありまして、これからの学習について学習のねらいや学び方、今まで学んできたことの関連などが示してあります。学習の総体が子どもたちにイメージしやすいような構成になっていると思います。また、深く学ぶという意味では、導入教材、例えば「笑うから楽しい」の次に本教材があり「時計の時間と心の時間」とつながっていきます。読解力を深めていく、深い学びにつながっていく教材の配列も非常に良いと思いました。

一方で、光村図書出版は高学年が1冊になっており重量があるという指摘がありました。それも否めない事実だと思いますが、5、6年生であればということと、国語の場合には教材の順番性は非常に薄いものですから、やはり1冊になっていたほうが、子どもたちの学習の教科書には適しているのではないかと思います。以上を総合して、私は光村図書出版の「国語」を推薦いたします。

戸塚委員 初めに、私の選定方法といいますか、スタンスをかいつまんで申し上げたいと思います。教科書を使って先生は児童にその教科を教えますので、すなわち教科書はあくまでも手段、道具なのです。したがって、私としては第一の選定方針として、先生方にとって使いやすい教科書と言われるものを採用したいと思います。

二つ目のスタンスとしましては、なるべく現在使用されている教科書が特段問題がなければ、引き続きそれを使うのがよろしいのではないかと思います。理由といたしましては、どの教科書も似たりよつたりの点はございますが、それでも出版社によっては若干の特色、違い等があります。したがって、1年間あるいはそれ以上ある教科書で学んできた児童にとって、次の学年になって急に違う教科書に変わると少し違和感を覚えるのではないかと思います。というおそれもありますので、特に問題がない教科書の場合は、なるべく翌年も使うのが良いのではないかとこの観点で考えます。

国語につきましては、選定資料作成委員会の御指摘で見ますと、教育出版と光村図書出版が国分寺市で使用するのに非常に適当であるという評価がされております。なおかつ2番目の私のスタンスから言いますと、現在使用されているのは光村図書出版の教科書であ

りますので、私としては光村図書出版を推薦したいと思います。

佐久間委員 国語は、全ての教科を学ぶ基礎となる科目です。語彙や語句への理解を深め、考える、読む、書く、話す、聞くという活動の中で生かしていく能力を身に付けていくことが大切だと思います。光村図書出版の国語の教科書は、文学性に優れた名作教材を豊富に取り入れていることに加えて、内容にふさわしい挿絵や写真を載せる、また、物語の背景や登場人物の紹介を教材の冒頭に載せることなどにより、教材文に対する理解を深めやすい工夫がされていると思います。楽しんで読み進めていくうちに、子どもたちに読解力が身に付いていくことが期待できます。

選定委員長からの御説明にもありましたように、語彙を豊かにする資料が豊富だということで、その中身としては言葉の宝箱として考えや気持ちを伝える言葉、学習に用いる言葉とページが別になっておりまして、内容が充実しています。

また、四季ごとに季節を表す美しい写真や言葉を載せてあり、日本語文化に必要な情緒も育めるようになっていていると思います。さらに、教科書に使用されている字体がやわらかいながらもしっかりとしています。少しくリームがかった用紙と相まって、読みやすく疲れにくいと感じます。以上の理由で、私は光村図書出版の教科書を推薦いたします。

大木委員 いずれの出版社の教科書も、非常に多くの側面から考える教材が多く、子どもたちの視野を広げることができるように工夫されていたと思います。それぞれの教科書を拝見しているうちに、いずれの文章にも引き込まれて読んでしまうような、良い課題の文章を選択されていたと思います。いろいろ拝見いたしましたが、結論から申し上げますと私は光村図書出版を推薦いたします。

理由といたしましては、選定資料作成委員会の資料にもございましたし、今までほかの委員の皆様からの御意見にもありましたように、新しい教材と定番教材のバランスが良く、児童に長く伝えたい内容が適切に含まれていると思います。また、新しい教材も児童にとって親しみやすく、興味を持たせる内容だったと思います。

2点目といたしまして、各教材の後の学習、見通しを持とうという内容が特に優れていると思いました。自ら考え、それぞれの問いに解答していくことにより、その教材でねらいとされている力を高めることができると思います。また、この解答を導くための具体例が多すぎないので、特定の解答に誘導されることなく、自由で多様な考え方が期待できると思います。

3点目といたしまして、先ほどからの富山委員、佐久間委員のお話にもございましたが、小2から巻末に設けられております「言葉の宝箱」が、言葉同士の関連を整理して語彙力を高めるという上で、非常に使用しやすいと思います。

最後に、1年の下巻の巻末と、6年の巻末に表彰状がついてございます。私はそれが非常に良いと思いました。初めて国語を学んだ1年生が、1年間の努力に対して自らを褒めることによって、自己肯定感を高め2年生以降の学習意欲を高めることができると思います。そして、6年生では6年間の集大成として、自らを表彰することにより、学びの成長を実感して中学生になるための心構えに役立てることができると思いました。以上の理由から、光村図書出版を推薦したいと思います。

教育長 委員の皆様方から光村図書出版というお話で、私も同意見であります。教科書の教材の魅力というのは非常に大きいと思いますし、伝統的な教材と新しい教材が融和されていて、非常に多様性のある教科書だと思いました。さらに読書への意欲を促す工夫も多方面でされていたとも思っております。

国語につきましては、4番の光村図書出版「国語」を採択したいと考えております。

(2) 国語（書写）

（選定資料作成委員長からの説明）

選定資料作成委員長 書写につきましては、4番の光村図書出版、5番の日本文教出版が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の東京書籍、3番の教育出版が「国分寺市で使用するのに適当である」、2番の学校図書が「国分寺市で使用するのに適当には至らない」としました。

東京書籍は、良い点として1年生の教科書で左利きの鉛筆の持ち方の写真を掲載するなどの配慮がされている、課題解決型の学習展開である点があります。一方、教科用図書が大判であること、6年生の書初め教材が5文字であることが課題として出されました。

学校図書は、実生活に結びつく学習が充実している、書写に興味を引くコラムが豊富である、説明が視覚的に捉えやすくなっているなどの良い点があります。一方で3年生初期の教材の難しさや手本の向きの掲載方法等、幾つかの課題が出されました。

教育出版は、リズムの良い合い言葉を使っている、表記がシンプルで分かりやすい等の良い点があります。書初めの書風が太くて力強くなっていますが、東京書籍と同様に、6年生書初め教材が5文字であることなどに課題があるとの意見がありました。

光村図書出版は、内容がほどよく精選されており、文字の活用が図られるような教材が配置されています。また、イラストやシールの活用なども児童の発達段階に考慮がされていると考えています。

日本文教出版は、学習過程が明確であり、段階的・系統的に教材が配置されています。自然な運筆で親しみやすい書風であるが、記述と説明が多い等の課題が出されました。

東京書籍と教育出版において、書初めの教材が5文字であり文字数が児童へ負担がかかるという内容の報告もありましたが、選定資料作成委員会では5文字のほうが自由に表現できるのではないかという意見もありました。ただし、その場合も教員の指導力が特に必要であると考えています。

（意見・質疑の要旨）

教育長 書写と国語の教科書が同じ出版社のほうが良いのか、そちらにはこだわらないのかについて、もし御意見等が出ていたらお知らせいただきたいと思います。

調査研究委員長（国語（書写）） 調査研究委員会では、国語と書写の教科書の関係について、同一の出版社のほうが教材の関連性などの面からは使用しやすいだろうという話がありました。書写の教科書に、国語の教科書の参照部分について記述されていることがあります。しかし、日本文教出版は国語の教科書を出版していませんので、そこについては特に関連をして扱うという形はありませんが、それでも特段問題はないだろうという話が出ておりました。

戸塚委員 まず、教科用図書選定資料作成委員会の検討結果ですと、光村図書出版が非常に適当であるということ、現在も光村図書出版の書写の教科書が使用されていること、この2点から先ほど申し上げた理由で、私は光村図書出版を推薦したいと思います。さらに加えて、今の御説明ですと国語の教科書と書写の教科書は、同じ出版社のほうが使いやすいだろうという御意見もあったということです。この点からも光村図書出版がよいのではないかと思います。

佐久間委員 私は、結論から申しますと光村図書出版の教科書が良いと思います。選定委員長からお話があった中で、イラストを多く使っているというお話がありましたが、子どもたちが字の形やバランスを学ぶに当たって、そのことになじんでいけるように字に沿って動きがある、大変かわいらしい猫のイラストを使用する、また3年生から始まる毛筆には「ななめほさきちゃん」というかわいらしいキャラクターを登場させることで、筆運びのポイントを学習しやすくするなど、教科書に愛着が湧くように工夫がされていると思います。

また、身近なところで手書き文字を生かしてその良さを実感できる資料に加えて、伝統的な日本語文化に触れることができる資料も充実していて、楽しみながら学ぶことができる教科書だと思います。そのような理由で光村図書出版の教科書が良いと思います。

大木委員 私も光村図書出版を推薦したいと思います。理由の第1点といたしましては、今までもお話に出てまいりましたように、イラストなどもしっかりと活用して、文字の書き方をイメージしたり、注意を向けたりする説明が非常に分かりやすく、かつそのイラストがしつこくない点が評価できます。ポイントや振り返りも適切であると思います。

第2点といたしまして、特に6年生の書写ブックで、過年度に学習したことを系統立てて日常生活で生かすことが示されております。こちらは新学習指導要領における実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能の習得に沿って、応用が非常に強く意識できる場所であると思います。ただし、東京書籍では特に左利きの児童への配慮が大きく記されているところを評価いたしました。光村図書出版ではここまでの大きな記載はなかったと思われます。この点につきましては、いずれの教科書が選択されたとしても、指導の際には十分配慮するように心がけていただきたいと思います。

富山教育長職務代理者 まず、日本文教出版ですが、考える、確かめる、生かすという学びの過程が、ポイントがしっかり分かるように明確に示されているのが良いと思いました。また、運筆についての説明が非常に分かりやすく、硬筆でも毛筆でもすっきり示しており、自然な運筆で無理がない書風がとても良いと思いました。また、構成上の工夫では、優しい段階から難しい段階へと子どもの発達段階、自分の力量にあわせて進めていくのですが、その系統的な配列がとてもよくできていると思いました。

光村図書出版は、先ほどからお話にも出ていますが、文字を書くときのポイントが具体的にイメージしやすいように、イラストが穂先のかawaiiい形をしています。それが非常に良く、文字の入れる、とめる、はらうポイントがよく分かるので、うまく構成されていると思いました。また、構成上の課題ではイラストを多く使う、シールでポイントを確認するなど、子どもたちの一人ひとりの理解の状況にあわせた構成になっておりますので、学ぶ教科書としては非常に良いと思いました。さらに、6年生の書写ブックなど付録的な学習材が充実しているのもとても良いと思いました。

どの教科書もそれぞれポイントを持った良さがあるのですが、比較し、総合的に考え、光村図書出版を私は推薦いたします。

教育長 委員の皆様方全員が光村図書出版を推薦されました。私も同様の意見です。皆様方から出された意見と同様ではありますが、まずは国語との関連を図った指導という観点では同じ出版社のほうが良いだろうと思いますし、大木委員から出された日常生活に生かすこと、日常化というところはこれから重要な部分なのではないかとも思います。また、基本的なことがしっかりと押さえられた教科書であるということも含めて、光村図書出版が良いと考えております。

それでは、書写につきましても4番の光村図書出版「書写」を採択したいと思いますがよろしいでしょうか。

(3) 社会(社会)

(選定資料作成委員長からの説明)

選定資料作成委員長 社会については、1番の東京書籍が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、2番の教育出版、3番の日本文教出版が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

東京書籍は、良い点として小單元ごとに「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」の学習段階が表示されています。特に「いかす」の学習段階については、児童が発展的な学習に取り組める工夫がされています。分量も適切であり、何よりも厚くなりがちな教科用図書が、5年生が上下巻、6年生が政治と歴史という形で分冊となっているところが、扱いやすいと考えられます。

教育出版は、良い点として巻頭に「社会科の見方や考え方」、「社会科学習の進め方」が掲載されており、見通しを持って学習に取り組めるようになっていたことが挙げられます。また、活用すべき知識や概念が学習の流れに則して、キーワードとして明示されており、基礎的基本的な知識、技能を身に付けられるよう工夫がなされています。一方で、資料、表、吹き出し等が多く問題解決の学習の流れが分かりにくくなっていることが課題として出されました。

日本文教出版は、細かな情報まで掲載されており、児童の興味・関心に則した学習を進めることができる点や、学習課題を解決する手立てとなる「見方・考え方コーナー」が新設されている点が良さとして挙げられました。一方で「まとめる」のページが少ないことや、見開きで工夫がされていますが情報量が多いことが課題として出されました。

(意見・質疑の要旨)

教育長 東京書籍が5、6年生で分冊となっていることについて、選定資料作成委員会では良いとおっしゃったのですが、調査研究委員会としてはどのような見解をお持ちでしょうか。

調査研究委員長(社会(地図)) 分冊の件に関しましては、子どもたちの教科書の重量化の問題等もございまして、やはり分冊になっているほうが日常の持ち運び等は非常に良いのではないかという意見が出ておりました。現時点では、6年生に関しましては2冊とも4月に子どもたちの手元に届くことになっておりますので、必要に応じて御家庭で見たりすることもできるのではないかと考えております。

佐久間委員 各社それぞれ工夫がなされて、優れた特徴があると思いました。各学校の調査書や市民アンケートを参考にしながら、より分かりやすく魅力ある授業が行えるか、子ども自身が理解しやすく、社会的な見方、考え方が育まれるかという観点を重視いたしまして、私といたしましては教育出版の教科書を推薦したいと思います。

この選定委員会の資料の中で、情報や文字量が多いと御指摘がありましたが、全体を通して教育出版の教科書は、項立てや本文の内容説明が非常に丁寧に書かれているので、様々な事象や歴史のつながり、時代背景などが大変よく分かります。文字量が多い割に難しくなく、子どもに寄り添った書き方をしているので分かりやすいと感じました。

社会科は記載の仕方で受け止め方に差が出てくるという特徴がある教科であることを前

提にいたしまして、同じ事象を読み比べて、児童が興味を持って学ぶことができるのではないかと、教育出版の教科書を見て感じました。

具体的な例として、少し長くなりますが、6年生の教科書の憲法、政治、歴史の中からそれぞれ教育出版の記載におきまして、特徴的な良いと思った点を挙げさせていただきたいと思います。

まずは日本国憲法の3原則「国民主権」、「基本的人権の尊重」、「平和主義」について学ぶところですが、いずれも読み手である児童の立場に立って、温かみのある言葉で書かれています。

2点目といたしまして、政治分野に関しましても児童に寄り添った記述がされています。現代の日本の社会の課題に触れ、それらの課題を解決し、人々の暮らしの願いを実現していくことが政治の大切な働きの一つであると示しておき、次に「子どもは未来への希望」という項立ての中で、子育て支援から始まり地方自治の仕組みの大切さを記していきます。続けて「互いに助け合う社会」という項立ての中で、社会保障を記し、結びに「社会の課題の解決と私たち」という項立ての中で「社会の課題の解決にどのようにかわっていくことができるか、考え続けていきたいな」という子どもの言葉を載せています。このような流れで学習することにより、子どもたちは自分のこととして捉え、一人ひとりがよく考えて、政治に参加していくことの大切さを感じ取ることができるのではないかと考えました。

3点目の歴史分野については、三つの場面を取り上げます。一つ目は「聖武天皇による国分寺建立と大仏づくり」という項立てです。その中に「聖武天皇は仏教の力をかりて、人々の不安をしずめ、国を守ろうと考えました」という一文があるのですが、このような言葉の選び方一つで聖武天皇のお人柄や思いが伝わってきて、歴史の一場面がとても身近に感じられると思いました。

二つ目としまして、戦争が始まった当時の国の内外の情勢や、特に満州事変が起こったいきさつ、そして太平洋戦争開戦、参戦の背景に関して、限られた教科書の紙面で全て書き切れるものではない中、小学生に理解できるよう言葉を選んで描かれていると思います。

三つ目、領土問題、竹島、尖閣諸島、北方領土それぞれの問題について、日本の立場、相手国の主張の双方を載せ、話し合いや働きかけにより平和的に解決しようとしていると表現されていることは、大切なポイントだと思います。

以上、一部ではありますが、記載内容を比較して、教育出版の教科書がより子どもたちが社会の出来事に関心を持ち、深く学べるのではないかと感じた部分を申し上げました。

その他、構成面においての特徴としては、先ほどお話に出てまいりました各学年の最初に、社会科の見方や考え方、社会科の学習の進め方のコーナーがあります。これを生かして学ぶことで、社会の様々な事象を身近に捉えて分析し、自分なりの考えを持つ習慣が身に付くのではないかと考えます。

最後に、教科書自体の特徴として、紙面や文字が反射しにくいこと、太目の文字を使っているので読みやすいことを実感いたしました。以上が教育出版の教科書を推薦する理由です。

大木委員 選定資料作成委員会で非常に適当であるとされた東京書籍と、適当であるとされた教育出版の間で非常に迷いました。結論といたしましては、私も教育出版を推薦したいと考えております。

理由といたしましては、まず構成上の点で、見開き2ページごとに「この時間の問い」

と「次につなげよう」という課題が設定されており、児童が各時間の目的と次への流れをつかみやすいという点です。また、3、4年生ではさらに三つのポイントからなる活動も示されており、具体的な進め方をイメージしやすいと思いました。

第2点といたしましては、ただいまの佐久間委員の御意見とも重なる部分がございますが、例えば5年で取り上げられている領土問題で「領土問題はないというのが日本の立場ですが、中国も自国の領土であると主張しています。日本は、これらの島々が日本の領土であることを相手国や国際社会にしっかり伝え、課題の平和的な解決に向けて粘り強く努力を続けていく必要があります」という点、さらに吹き出しで「国にとって領土はとても大事だけど、隣の国々とは仲良くしていきたいね」といった表現に魅力を感じました。ただ領土問題が存在しないというだけで終わってしまうのではなく、他国の主張もあるという事実を踏まえた上で、日本が国際社会に向けてこれらの島々が日本の領土であるということを、冷静かつ平和的な解決を目指して訴えていくのだという、より一歩建設的な表現になっているところが良いと思いました。これから世界に羽ばたいて活躍してほしい子どもたちには、そのような友好的、平和的な理念をぜひ念頭に置いてほしいと思っております。市民アンケートなどでも、この点を評価していらっしゃる御意見も拝見いたしました。

さらにその次のページでも、領土をめぐる問題の解決に向けて、世の中がどのように動いていくか、これからも関心を持っていこうとして世界に目を向けさせ、関心を持たせることも今後国際的な活躍が期待される子どもたちにとって重要であると考えました。選定資料作成委員会の報告書には、情報量や文字量の多さの御指摘などもございますが、例えば資料にはア、イ、ウなどの記号もついておりますので、指導上でそれだけを見るようにと指示をしていただければ、それほど混乱を生じさせることもないのではないかと思います。結論といたしまして私は教育出版を推薦いたします。

富山教育長職務代理者 まず、東京書籍の内容面ですが、報告にもありましたが、学習の進め方について、特に学習指導要領では学んだことを生活に生かしていく視点が大事なので、小單元ごとに「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」という学習のプロセスがしっかりと示されるのは、とても良いと思いました。キャラクターのドラえもんについてはいろいろな評価があるだろうと思いますが、大事なことが示してあるよ、ということで特に社会科の見方、考え方がポイントとして出てくるのもそれなりに評価できるのではないかと考えました。また、構成上の工夫については、設置されている学び方コーナーでグラフや資料の見方がしっかりと的を射て示されているのも良いのではないかと思います。

教育出版では、特に内容面で児童の発達段階が十分に考慮された内容、表現、表記がなされている点が良いと思いました。また、記号や図形あるいは挿絵が、説明の中で洗練されて表示されており分かりやすいと思いました。また、構成面では、特に1時間ごとの学習課題が明確に示されていて非常に分かりやすいこと、巻頭では「社会科の見方や考え方」、「社会科学習の進め方」があり、学び方が丁寧に記されていることは、教育出版の良さではないかと思います。

日本文教出版については、内容面から言いますと、子どもたちの発達段階を十分に考慮した内容や表記でよく洗練されている教科書だと思いました。それから、特に構成上の部分として、社会科の場合には社会的な事象の見方や考え方、学習指導要領ではその部分をしっかりと子どもたちに理解させることが趣旨としてあるのですが、それを教えるのではなくて追究する、解決する手立てとなる見方、考え方がコーナーとして示されているのも

とても工夫された教科書だと思いました。私にとってはこの3社はどれも良いと思いますが、昨年使った教科書を基にもう一度指導計画や評価計画等を行う先生方の立場から考えますと、教育出版が良いのではないかと思いますので、私は教育出版を推薦いたします。

戸塚委員 現行の教科書は教育出版となっておりますが、選定資料作成委員会の資料によりますと、東京書籍が「国分寺市で使用するには非常に適当である」と検討結果が出たようですので、私も先ほど申し上げたとおり、その御意見を尊重して東京書籍を推したいと思います。

教育長 三人の方が教育出版、戸塚委員からは東京書籍というお話でした。私の考えを申し上げますと、東京書籍を推したいと思います。分冊による大きな影響はないようなお話もありましたが、6年生で歴史編と政治編としっかりと分けて学ぶことを示していることは、非常に扱いやすく良いのではないかと思います。

また、徹底して問題解決的な学習を進めていく構成になっていることは、これからの学び方を学ぶという点では、子どもたちが非常に参考にしやすいのではないかと思います。さらに写真やイラストなども豊富で、資料として活用しやすいと思います。そちらを活用しながら、総合的に子どもたちがしっかりと考えられる教科書になっていると思います。

以上の点から、東京書籍を推したいと思いますが、三人の方が教育出版、戸塚委員と私が東京書籍でございますので、そちらにこだわることなく教育出版で採択は進めていきたいと思いますが、戸塚委員、よろしいでしょうか。

戸塚委員 結構です。

教育長 それでは、社会科につきましては2番の教育出版「小学社会」を採択するということでまとめていきたいと思います。

(4) 社会(地図)

(選定資料作成委員長からの説明)

選定資料作成委員長 地図につきましては、2番の帝国書院が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の東京書籍が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

東京書籍は、良い点として地図や地球儀を活用して、諸事象の特色や意味などについて自ら進んで考え、判断し、表現できる内容となっている点や、記号の説明や索引の使い方が丁寧に説明されている点が挙げられます。一方で、山地と平地などの色分けが鮮明でないことや、海と湖が同じ色で表記されている点が課題として出されました。

帝国書院は、良い点として地図に関する基礎的・基本的な知識・概念や技能を身に付けやすくするためのイラストや写真が分かりやすく表記されていることや、文字や記号を大きくして親しみやすい書体を使っていること等が挙げられました。反射を抑えた用紙を使用するという細かなところへの配慮がされており使用しやすいと考えられます。また、将来にわたって地図活用の技能を生かせるよう、「地図のやくそくごと」、「地図帳の使い方」等を重視して巻頭に配置している工夫もあります。

(意見・質疑の要旨)

大木委員 発行社が2社ですので、両社を比較いたしまして検討いたしました。結果といたしましては、帝国書院を推薦したいと思います。

理由といたしましては、まず、先ほどの御報告にもございましたように、地図として見

たときの情報量が適切で見やすく、山地と平地の色分けも明確で分かりやすいという点が挙げられます。それから、私個人といたしましては「地図マスターへの道」というクイズがついておりまして、児童は非常にクイズが好きですので、クイズを通して地図に親しみながら地図や地形に対する理解を深めることができるという点です。

最後に、帝国書院には多摩地区がしっかりと大きく掲載されております。国分寺市で使うからにはこのことが必要だと考えます。以上の理由から私は帝国書院を推薦いたします。
富山教育長職務代理者 まず、帝国書院の地図ですが、文字や記号が見やすく大きく、分かりやすくなっていると思いました。とりわけ詳しく書いた日本地図に対して、情報量を少なくして日本列島を外観できる地図があることは、特に小学校中学年の子どもたちにとっては非常に地図に親しみやすくなり、良いと思いました。また、地図を見比べてみて表面処理がしてあり反射しないことは、子どもたちにとっても見やすい地図になっているのではないかと思います。

構成上の工夫として、巻頭に「地図って何だろう」、「地図のやくそくごと」、「地図帳の使い方」が丁寧に記されております。地図学習の部分ではこの部分を素通りしてしまうと地図を見ても地図が読めない、分からないということが出てきますので、それをどれだけ使うかは別として、最初はこういう約束事をしっかりと示すことが地図帳としては大事であると思いました。以上から総合して私は帝国書院を推薦いたします。

戸塚委員 私も結論としまして帝国書院を推したいと思います。

理由としましては、教科書資料選定委員会の御意見もそうであるということと、先ほど大木委員も言われたように、東京都、特に多摩エリアがかなり拡大されて地図に出ております。今確認したところ武蔵国分寺跡もしっかりと地図に出ているようですので、国分寺市内の小学校にとってこれは必須ではないかと思います。

佐久間委員 私も帝国書院の地図帳が良いと思います。

地図全体を通して、色の濃淡がはっきりしていることで土地の高低差が分かりやすく地形がイメージしやすいこと、字や記号もくっきりとして見やすいことがあります。また、世界の国によって色分けがしてあるので、国の形がはっきり分かります。さらに、広く見渡す地図は、地方ごとにまとまっていて県境がはっきりとしていて見やすかったです。大木委員からもありましたが「地図マスターへの道」といったクイズや「集まれ、世界の子どもたち」というコーナーがあり、世界の子どもたちの様子が身近に感じられるなど、楽しく学べる工夫があると思いました。また、日本の災害と防災などの資料も大変充実していると感じました。以上の理由で帝国書院の地図帳を推薦いたします。

教育長 皆様が帝国書院を推薦されました。私も同様の意見です。帝国書院では、武蔵国分寺跡の表記は複数示されておりましたので、これは極めて重要だと思いました。

それでは、地図につきましては、2番の帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」を採択したいと考えます。

(5) 算数

(選定資料作成委員長からの説明)

選定資料作成委員長 算数については、1番の東京書籍、4番の教育出版が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、3番の学校図書、6番の日本文教出版が「国分寺市で使用するのに適当である」、2番の大日本図書、5番の啓林館が「国分寺市で使用するのに適当には至らない」としました。

東京書籍は、図解や色や囲み、イラスト等が効果的に使われており分かりやすいです。また、構成上の工夫では自己解決から集団解決につながるような工夫がされていることが挙げられております。選定資料作成委員会では1年生の入門期に別冊として内容を丁寧に取り上げているので、分かりやすいという意見もありました。一方、情報量が多いという課題も出されました。

大日本図書は、良い点として学習感想例を参考に、児童が単元の振り返りをしやすくなっている点が挙げられました。一方で、文字が大きいものの余白との関係でかえって見にくさを感じることや、重量があり持ち運びに不便であることが挙げられます。また、考えの例示やめあてが丁寧に記載されていることで、児童に主体的に考えさせにくいという課題もありました。

学校図書は、良い点として対話的な活動ができる教材が豊富で、児童が協働的な学習がしやすくなっている点、情報量が適切であるので児童が自ら考えやすい点が挙げられます。一方、構成上の工夫の観点では、他社と比較して判が一回り大きいため、教室等において出し入れしづらいという課題が出されました。また、時計を数える単元が早いと扱いづらいという単元配列の課題について、選定資料作成委員会では年間指導計画を作成する際に、単元を組み直していくことで解決できるという意見も出されました。

教育出版は、身近な題材から問題を発見し、主体的な学びにつながられている工夫があること、問いの連続でつくる数学的な活動があることなどが良さとして挙げられました。一方、分度器など用具の線がはっきり描かれておらず見にくいという課題も出されました。

啓林館は、良い点として単元の初めに学びのフローとノートの手具体例が挙げられており、主体的な学びにつながっていくことなどが挙げられました。一方、計算の単元が分かれていて、児童の自然な問いが途切れることや、「めあて」と「まとめ」の表記に統一感がない等の課題が出されました。

日本文教出版は、良い点として学習した内容を生活の場面で活用できるよう工夫されています。また、プログラミング教育としてスクラッチを活用した内容を扱っており使いやすいと考えられます。一方で、色が多く使われていることで見にくいということや、まとめについての表記に統一感がないという課題が出されました。

なお、プログラミング教育については、日本文教出版のみならず全ての出版社で取り上げてあることを申し上げます。

(意見・質疑の要旨)

大木委員 教育出版については、報告書に課題として「用具（分度器など）の線がはっきり描かれておらず見にくい。」と記載がございます。分度器が最初に出てくるのは4年の上巻で、見にくい印象はそれほどないのですが、どのような点でこのような課題が出されたのでしょうか。

調査研究委員長（算数） こちらについては調査研究委員の主観的な感想が出ていると思います。他社と比べての考えだと思いますので、こちらだけ見た場合についての見にくさは、特に私も感じておりません。

教育長 他社のほうが鮮明に見えたという、調査研究委員の意見があったということですね。

富山教育長職務代理者 最初に、東京書籍ですが、色や囲み、イラストが非常に分かりやすく効果的に使われていて、子どもにとって大変見やすく、分かりやすくなっているの

ではないかという印象を受けました。また、主体的で対話的で深い学びということが、今回の教科書の根底にあるわけですが、そのうちの主体的に、つまり自分で考えて、集団解決へと持っていく追究過程が非常に丁寧に分かりやすく、編さんされていると思いました。

教育出版は、子どもたちの学習課題を明確にとは言われますが、子どもたちがその気になるには適切な問いの連続が、大変重要な視点になると思います。その点で問いが上手く連続されていて、問題解決的な思考が一人ひとりの子どもたちに定着していく部分が、大変よくできていると思いました。また、イラストがすっきりしていて見やすいこと、学びの手引きが充実していることも良い点だったと思います。

私も分度器の線が御指摘のとおり見にくいのかなと思って幾つか見ましたが、見にくいところを自分自身で指摘できず、この程度なら良いのではないかというのが私の実感でございます。以上を総合して、教育出版「小学算数」を推薦いたします。

戸塚委員 教科書用図書選定資料作成委員会の検討結果ですと、東京書籍か教育出版の教科書が国分寺市で使用するのに非常に適当であるという御意見ですので、この2冊について主に検討しました。その結果、東京書籍の教科書は、資料にも記載されているように情報量が多いというか、何でもかんでも詰め込み過ぎという印象を受けました。これに対して教育出版の教科書については、イラストがうまく効果的に使われていて見やすい、分かりやすいという印象を受けました。また、資料にもありますが、身近な題材から問題を発見できるようにしてあり、主体的な学びにつなげやすいというところは、まさにそのとおりだなと思いました。以上のような結果から、私も教育出版の教科書が良いのではないかと思います。

佐久間委員 東京書籍と教育出版で大変迷いましたが、結論としましては東京書籍の教科書を推薦したいと思います。良い点について、選定委員会の資料のとおりですが、さらに良いと思った点を3点挙げたいと思います。

1点目は、児童の学年別の発達段階にあわせた内容になっていると感じます。1年生の導入部は本が大きくタイルを実際に並べてみるスペースを紙面上に設けるなど、子どもにとって親しみやすく丁寧なつくりになっています。また、学年が上がるごとに紙面の色合いやイラストが落ちついていきます。整理の仕方も整然として、見やすいのではないかと思います。思いまして、考えることに集中できそうだと思います。

2点目は、6年生の教科書では目次の単元の横に、後の学習とのつながりがあり、また、巻末の「算数の仕上げ」の中に「算数卒業旅行」がありまして、中学の数学とのつながりを持てるつくりになっています。

3点目は、学習の流れを実際に追って見ていきますと、東京書籍の教科書は導入から結論に至るまでの考え方の過程がとても丁寧な流れになっています。もしかすると、丁寧に分かりやすくするための流れの中で、情報量も多くなっていくのではないかと感じました。例えば6年生の分数同士の割り算では、初めて理解する場合、なぜ割る数を逆数にして掛けるのかということは本当に難しくてつまずきやすいポイントでもあると思います。こちらについても、考え方が混乱しそうなところで、割る数が分数の場合でも整数や小数のときと同じように、割り算の式を立てると一旦まとめておいて、ほかの2通りの考え方の答えを自分で導き出し、3通りの考え方の答えが同じになることを確認して、分数で割る計算は割る数の逆数を掛けるという結論に至ります。

このように、考える過程を大切にする学習から、思考力、判断力、表現力が育まれることが期待できると考えます。以上の良い点3点を加えまして、私は東京書籍の教科書を推

薦したいと思います。

大木委員 私も選定資料作成委員会で非常に適当であるとされました東京書籍と教育出版の2社を中心に検討をさせていただきました。結論といたしましては、私は教育出版を推薦したいと思います。

理由といたしまして、第1点目は、報告書にもございますように「はてな？→！なるほど→！？だったら」というように、問いの連続で、児童の興味を引いて、児童が主体的に考えられる構成になっている点です。登場人物のセリフも、適度な量や内容で大きなヒントというより、自ら主体的に考えを深めるのに役立つだろうと思いました。東京書籍の教科書も、佐久間委員のお話にあったように、とても良い教科書だと思いましたが、少しヒントがあり過ぎではないかという印象を受けましたので、これが大きなポイントでした。

第2点といたしましては、児童がつまずきそうな箇所や理解が難しい箇所では、なぜそうなのかという説明がしっかりとされているという点です。例えば3年の下巻のそろばんの繰り上がりの点につきまして、ただ単にこうしますというだけでなく、足し過ぎた2を引くのだよねというように、なぜそのようなことをするのか説明がしっかりとありました。必要なところでは、十分な解説がなされておりまして、メリハリがついているという点も良いと思ったところです。以上の理由から私は教育出版を推薦いたします。

教育長 東京書籍と教育出版、いずれも良い教科書だと思いましたが、私は東京書籍を推したいと思いました。特に算数の入門期である小学校1年生に対する丁寧さがありますし、自学自習につながる学習の仕方が本当に丁寧に分かりやすく示してあります。さらに、補充とチャレンジ問題などもしっかりと位置づけられていて、学びが確実に定着できるような工夫がされていると思います。

しかしながら、そこに強くこだわるわけではございません。委員の皆様方のお考えでは、3人の方が教育出版ということでございますが、佐久間委員、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

佐久間委員 結構です。

教育長 それでは、算数につきましては4番の教育出版「小学算数」を採択するということで進めていきたいと思います。

(6) 理科

(選定資料作成委員長からの説明)

選定資料作成委員長 理科につきましては、2番の大日本図書、4番の教育出版が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の東京書籍、3番の学校図書、6番の啓林館が「国分寺市で使用するのに適当である」、5番の信州教育が「国分寺市で使用するのに適当には至らない」としました。

東京書籍は、学習問題がシンプルで児童にとって分かりやすい、他の単元や他の教科との関連を図っている良さも見られました。一方、結果が絵や表、写真だけで描かれている単元がある、全体的に漫画が多いため扱いづらいとの課題も出されました。

大日本図書は、新学習指導要領で3年生に新設された音の性質について、実験方法が分かりやすい、紙コップなどの身近な材料を使っている、クラス全員が一度に体験できる実験が載っているなど工夫されています。また、実験の流れも分かりやすく示されていました。さらにプログラミング教育の視点の教材が分かりやすく掲載されており、プログラミング的な思考の育成のための工夫がされています。

学校図書は、単元の最初のページに全体の流れが分かるようになっており、見通しを持って学ぶという児童の発達段階を考慮している良さが挙げられました。一方、写真が大きく見やすいところは良いのですが、全体的に色合いが似ていて見にくくなっている点と、5年生の振り子が最初にあるため、算数の平均の学習と関連させにくい点、雲の動きが梅雨の時期に当たり観察させにくい点が課題として出されました。

教育出版は、良い点として実験の流れや方法が写真付きで載っていて分かりやすく、他の単元や他の教科との関連を図っている点があります。また、実物大の大きさや写真などにも本物が使われている点も良い点です。一方、写真の背景が暗く見にくい、児童の考えが書かれすぎているという課題が出されました。選定資料作成委員会においては、考えの例示が書かれすぎているという課題に関して、例示の児童の意見が書かれていると児童の自由な考えが制限されてしまう可能性もあるが、3年生の指導時期には考え方を示すことも大切ではないかという意見もありました。

信州教育は、見本本が届いておらず調査資料がないため、国分寺市で使用するには適当に至らないとしております。

啓林館は、良い点として3年生のものの重さ、5年生の振り子が学年末にあり、算数と関連させて指導できる点があります。一方、実験結果の写真が載っている単元がありますが全体的に資料が少ない傾向にある点、例示の考えが書かれすぎている点、字体が読みにくく大切な言葉や文がどこに書かれているのか分かりにくい点が課題としてあるという意見がありました。

大日本図書及び学校図書にある音の学習に関して、3年生の学習に難しいということですが、年間指導計画の単元を入れかえて指導することで対応できると選定資料作成委員会では協議をいたしました。

(意見・質疑の要旨)

戸塚委員 国分寺市で使用するのに非常に適当であるとされたのが、大日本図書と教育出版ですが、大日本図書については、本年度も使用されている教科書でありますので、私としては必然的に大日本図書を推したいと思います。

佐久間委員 私も結論から言いますと、大日本図書の教科書を推薦したいと思います。ただいま、良い点の多い教科書であると選定委員長から御説明がありました。実際に拝見いたしましても、理科の教科書ですので大きな写真と文章が中心となっていきますが、見開きのページ内にすっきりと整理されて配置されていますので、とても見やすく、分かりやすいと思いました。写真がとてもきれいで臨場感があります。それぞれの流れにつきましても、問題から予想、計画、実験、結果、考察、結論といった流れが、見出しも含め規則性と連続性があり、美しく大変分かりやすく書かれています。子どもたちが楽しく実験や観察に取り組むことができそうだと思います。

「コラム」、「学んだことを生かそう」や「理科の玉手箱」、「深めよう」、「サイエンスワールド」との相乗効果で、身近な自然を理科的な見方で探求する能力が養われるのではないかと思います。そのような理由で大日本図書の教科書を推薦したいと思います。

大木委員 私も、大日本図書を推薦したいと思います。

理由といたしましては、第1点として、先ほどからの御報告にもございますように、実験や観察の方法が流れに沿って非常に分かりやすく記載されている点です。

第2点といたしまして、問題を「見つけよう」というコーナーで身の回りのものに目

を向けさせていること、さらにヒントを出し過ぎていない点も評価できました。

第3点といたしまして、問題に対する「予想しよう」、「計画を立てよう」というところも、適切なヒントの量であり児童が主体的に考えられるようになっております。

第4点といたしまして、実験や観察時の注意が毎回細かく記載されておりまして、非常に安全面に配慮されていると同時に、実験や観察の方法についてしっかりとルールを理解していけるだろうと考えました。

最後に、5点目といたしまして「学んだことを生かそう」の問題は、より自らの言葉で表現することを求めています。授業で得られた知識を生かして問題を解くことにより、より思考力と表現力を高めることが期待できると思われました。以上の点から、大日本図書を推薦いたします。

富山教育長職務代理者 教育出版の教科書は、実験の流れや方法が写真付きで丁寧に示してあります。実験の流れが分かることで、子どもたちの実験に対する態度や気持ちが進展していくのではないかと思います。

大日本図書の場合、教科書を開いて本当にびっくりしたのは、写真が大きくその学習課題を写真がものの見事に示しているという点で素晴らしいと思われました。そして、本文と説明文が非常に分かりやすく丁寧で、洗練されておりまして、今回の教科書の中心になる問題解決的な学習の進め方や振り返りなどが丁寧にされておりまして、子どもたちは教科書によって考えたり、いろいろな仮説を立ててみたり、実験してみたり、それを検証し振り返るといった深い学びができる教科書ではないかと思われました。また、教師の立場では、それを指導するのに幾つかの授業改善の視点がありますが、それも教科書から読み取れ、洞察できます。子どもにとっても先生にとっても、非常に優れた教科書ではないかと思われました。以上を総合しまして、大日本図書が適切だと思い推薦をいたします。

教育長 皆様方が大日本図書を御推薦されましたが、私も同様です。富山委員がおっしゃったように、写真が多くて分かりやすく、少し過剰なくらいの印象を受けましたが良いと思われました。また、学び方の流れが非常に明確です。ひいては教えやすさにつながるのではないかと考えております。若い先生方の中には、少し理科が苦手という先生方も多い中で、教えやすさということはとても大切ではないかという点でも、大日本図書を推したいと思っております。

皆様の意見がまとまりましたので、理科につきましては、2番の大日本図書「たのしい理科」を採択したいと思います。

（7）生活

（選定資料作成委員長からの説明）

選定資料作成委員長 生活については3番の学校図書、7番の啓林館が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の東京書籍、2番の大日本図書、4番の教育出版、6番の光村図書出版が「国分寺市で使用するのに適当である」、5番の信州教育が「国分寺市で使用するのに適当には至らない」としました。

東京書籍は、良い点として児童同士の対話を通して、学びを深めていこうとする内容が多く掲載されている、上巻の巻末にある「ポケットずかん」が教科用図書から切り離して、持ち運びできる点があります。一方、教科用図書のサイズが低学年には大きく、1年生の児童には扱いが難しいことが課題です。

大日本図書は良い点として、学習の中にペアやグループ、学級全体などの交流場面を適

切に位置づけていて、伝え合いなどの交流活動を重視している内容が多く見られる点が挙げられます。一方、全体的に写真や挿絵が小さく、情報量が多過ぎるという課題が挙げられました。

学校図書は、良い点として観察カードの記録例が多く掲載され、記録したカードをもとに振り返りができるようになっている点が挙げられます。お礼の手紙の作文例なども掲載されていて、友達や地域の方たちなど他者とのかかわりの中で学習する内容が見られるという良い点があります。写真や挿絵のサイズが適切で見やすい一方で、教科用図書のサイズは低学年にはやや大きいという課題が出されました。

教育出版は、学び方の例が豊富で、学習カードや作文の例示が低学年児童にとって適切な内容となっている良さがあります。一方、挿絵が非常に細かく読み取りにくい、各単元にある自己評価の内容が低学年の児童にとっては理解しづらいのではないかという課題が出されました。

信州教育は、見本本が届いておらず、調査資料がないため国分寺市で使用するのに適当には至らないとしております。

光村図書出版は、写真やイラストは分かりやすいという良い点が挙げられました。また、活動内容が明確に示され、見通しを持たせやすいとの意見もありました。課題として、内容に関する説明が少ない単元があることや、ページの配列がやや児童の実態に合っていないことが出されました。

啓林館は良い点として、活動例を写真や学習カード・イラストで分かりやすく示していることや、単元ごとに3段階構成となっていることで単元の見通しを持ちやすくしていること等があります。各巻の巻頭にある「スタートブック」などは、幼稚園、保育園との接続を図る上で丁寧にできているという報告もありました。

日本文教出版は、良い点として単元ごとに学習のめあてが示されており、学習の流れも分かりやすく、バランスも良く見通しを持って取り組める点があります。一方で、植物の成長の様子を分かりやすくするために、1ページごとに山折りをして成長の流れを見ていく単元が上巻にありますが、1年生には技術的に難しいという課題が出されました。

各社においてデジタルコンテンツが整備されており、教材と関連する内容が掲載されているウェブサイトにつながる二次元コードがあり、選定資料作成委員会でも協議の中で話題となりました。

(意見・質疑の要旨)

教育長 最後に御説明をいただきました二次元コードについてお伺いします。特に生活という教科ですので1, 2年生にとってそのような情報が必要なのか、授業あるいは家庭学習のどのような場面で活用できるのかについて、もし話題になっていましたら御紹介いただけたらと思います。

調査研究委員長(生活) 二次元コードにつきましては、どの教科書会社も掲載されておりまして、直接二次元コードが掲載されているもの又は発行社のホームページにアクセスしその動画を見るものとなっております。担任からいたしますと、動画を通して植物の成長や昔遊びの遊び方を授業で児童に紹介するのに有効ですし、また、家庭で保護者が児童と一緒に見るという点でも有効だと思っております。

佐久間委員 私は啓林館の教科書を推薦したいと思います。

写真や絵、文字がすっきり整理され配置されていて、見やすく分かりやすい教科書だと

思います。学習のテーマがはっきりしていて、紙面上にも分かりやすく書かれています。また、ただいま選定委員長から单元ごとに3段階構成になっており、学習の進め方が分かりやすく見通しが持てると御説明がありました。実際に見てみましても、段階ごとに色分けされていて、低学年の子どもにも取組が理解しやすそうだと感じました。そして、3段階目の「ぐんぐん」これは伝えるというところですが、「伝え合う」、「紹介する」、「みんなで遊ぶ」などそれぞれの单元での学習を、クラスで共有できることがとても良いと思いました。以上の理由で啓林館の教科書を推薦いたします。

大木委員 私も啓林館の教科書を推薦いたします。

理由といたしましては、先ほどの御報告にもございましたように、構成としての各单元の「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」という3段階の構成から、学習の流れが分かりやすいことが第1点です。

2点目といたしまして、上巻の巻頭の「スタートブック」は、幼稚園や保育園からのつながりとして、非常に導入に活用しやすいと思いました。最初から何かができるというよりは、むしろ小学校という新しい環境に慣れることを重視しており、この点が評価できると思いました。

最後に、同じくこの「スタートブック」で、通学の安心・安全について、最初からしっかりと記載されている点が良いと思います。さらに家庭と学校の連携を家庭に大きく呼びかけている点を評価いたしました。啓林館の教科書は、全体的に保護者への働きかけが多くなされていると感じまして、家庭と学校の連携は、この先の6年間継続して必要になる非常に大切な点ですので、保護者と学校とが協力して子どもたちを見守っていこうということを保護者の方にもお伝えするのに、非常に適切な教科書であると思いました。

富山教育長職務代理者 学校図書は、会話の場面が多く設定されていまして、他の人と関わりながら活動し、学んでいく点が非常に分かりやすいと思いました。また、学習カードの記載例も非常に多く、モデルが示されることによってマイナス点もありますが、子どもにとっては分かりやすいのではないかと思います。さらに、「どきどき」、「いきいき」などのテーマがあり、この示し方も子どもにとっては知的好奇心をくすぐるテーマではないかと思います。

啓林館では、「見つける」、「比べる」、「見通す」などの活動のプロセスが、写真やカード、イラストで示してあり、生活科においても「なぜ、どうして、不思議だな」といった子どもの気づきや疑問をもとにしながら、発展的に探求していく学習が求められていますので非常に参考になるのではないかと思います。そのような点で写真が実物より大きくなっているのも良いのではないかと思います。

先ほど大木委員がお話しされていた「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」の3段階の構成はよく考えられており、子どもにとって非常に臨場感があり分かりやすく示されているのではないかと思います。また、大木委員がおっしゃっていた「スタートブック」に対して、下巻巻末の「ステップアップ」があります。こちらで3年生以降の理科や社会科につなげていくことになります。生活科の入口と出口を示してあるのも新しい試みではないかと思います。以上を総合しますと、啓林館が良いのではないかと私は思いましたので、啓林館を推薦いたします。

戸塚委員 私も結論から言いますと啓林館を推薦したいと思います。

理由としては、既にほかの委員の皆様がおっしゃっているとおりなのですが、特に気づいたのは写真が効果的に使われていて、非常に見やすい構成になっていることが挙げられ

ると思います。

教育長 皆様が啓林館を推薦されておりますが、私は日本文教出版の下巻に「殿ヶ谷戸庭園」や「国分寺市」と表記もございまして、こちらも少し気になるころではございます。しかし、皆様と同じように、啓林館の3年生への連続性ということも含めて非常に良い構成になっていると思いますので、啓林館を選びたいと思っております。

それでは、皆様のお考えが一致しましたので、生活については7番の啓林館「せいかつ」を採択したいと思っております。

（８）音楽

（選定資料作成委員長からの説明）

選定資料作成委員長 音楽につきましては、2番の教育芸術社が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の教育出版が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

教育出版は、良い点として選曲において児童が興味関心を持ちやすいものを採用している、巻末に共通事項として示されているものが掲載されている点があります。一方、情報量が多いので見づらいという課題が出されました。

教育芸術社は、良い点として文字数や情報量が精選されている点や、日本の伝統音楽の扱いが充実しているという点があり、それらをととても意識してつくられているのではないかという報告がありました。また、4年生のサミングが教科書の後半に掲載されており、発達の段階を考慮しているという良い点もありました。

（意見・質疑の要旨）

大木委員 私は、教育芸術社を推薦いたします。

理由としましては、今の御報告にもございましたように、日本文化を大切にする観点からも伝統音楽が充実していることは非常に重要だと思います。また「音楽の木」で年間目標が明確になる点も重要です。報告書にも書いてございますように、リコーダーの運指が分かりやすく説明されていること、選曲が発達段階や技能の熟達の程度を考慮されていること、こちらは児童が学びやすいというだけでなく、先生方も御指導しやすいだろうと思われました。以上の点から私は教育芸術社を推薦いたします。

富山教育長職務代理者 教育芸術社には目次に「音楽の木」というコーナーがあります。1年間の自分たちの学びの全体像が鳥瞰できるように、単なる羅列の目次ではなく「音楽の木」によって学びの全体像がつかめるようになっていることはとても良い示し方ではないかと思われました。また、音楽は国際理解教育でもあります。その意味では5年生で日本の伝統音楽を楽しみましょうとなっていて、今度は同心円上に発達する子どもたちの成長を見通して、6年生で世界の音楽を楽しみましょうという、その配列も大変工夫されていると思われました。

さらに人物やイラスト、写真などが非常によく音楽の下にマッチしていると思います。例としては「おぼろ月夜」が5年生にあります。歌詞にある「里わの火影」、詩からすると夕日が落ちていって里の家の明かりがほのぼのと少し見えるという意味ですが、写真がものの見事にその瞬時を捉えていて素晴らしいと思われました。以上から、教育芸術社を推薦いたします。

戸塚委員 私も教育芸術社を推薦します。理由としましては、何度も申し上げますが、

選定資料作成委員会の検討結果のとおりです。

佐久間委員 私も教育芸術社の教科書を推薦いたします。良い点について数多く御紹介いただきましたが、私はこの選定資料の①の2点について良いと思った点を申し上げたいと思います。

最初に良い点として挙げられている日本の伝統音楽の充実という点で、子どもたちに歌や演奏を体験してほしい、日本の美しいメロディや聞いてほしい名曲が教材としてたくさん取り入れられているほか、和楽器や舞踊を含む伝統芸能や郷土芸能についても、幅広く紹介されています。ぜひ子どもたちには日本に伝わる音楽に親しみ、良さを十分味わってほしいと願っています。

次に良い点として挙げられている友情・信頼の観点から選曲されているという点について、まず、良いと思いましたが1年生の最初が「うたっておどってなかよくなろう」、副題として「ともだちといっしょにこえをあわせてうたったりあそんだりすることができるかな」という単元で始まることです。このことは音楽を通じて人とつながることができるという音楽の素晴らしい原点とも言うべき大切な役割を最初に体験できることが優れていると思いました。

全学年を通して、友情・信頼の観点から選曲された曲を体験することで、子どもの心が豊かに育っていくことが期待できます。また、6年生の「詩と音楽の関わりを味わおう」という単元の中で「ふるさと」を学習した次のページに「音楽が人と人をつなぐ」という特集を組み、3枚の写真を紹介しております。1枚目はお年寄りと歌で交流する小学生、2枚目はステージ上の演奏者と観客が一体となって盛り上がる場面、3枚目に復興と希望の歌ということで紹介し、音楽が人と人をつなぐ力を持っているということを6年生で再認識するという優れた構成になっていました。

子どもたちには音楽を通して素晴らしい体験を多く積んでほしいと思います。以上の理由で教育芸術社の教科書を推薦したいと思います。

教育長 委員の皆様方からは同意見で教育芸術社を御推薦いただきました。私も同様でございます。日本の音楽が非常に充実していること、私は楽譜を見て歌詞が非常に読みやすいと感じました。非常に扱いやすい教科書であろうと思っております。

それでは、意見も同様でございますので、音楽については、2番の教育芸術社「小学生の音楽」を採択したいと思います。

（９）図画工作

（選定資料作成委員長からの説明）

選定資料作成委員長 図画工作につきましては、2番の日本文教出版社が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の開隆堂出版が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

開隆堂出版は、題材名の下に記されている短い導入の言葉だけでも、子どもがどのような活動をすれば良いのかが分かることや、各題材のページの下部に欄を設け、他教科等との関連づけが記されていること等が良さとして挙げられます。一方、立体の題材の扱いが比較的少ないことや、見開きのページに左右で異なった題材が掲載されていて、低学年では扱いにくいことが課題として出されました。

日本文教出版は、良い点として全体的に児童の発想を大切にした多様性のある表現をねらった題材が多く、造形遊びも豊富に扱われている点が挙げられます。また、発達段階に

応じて子どもの作成過程や作成例を分かりやすく示している点、児童が作成に対するイメージを膨らませやすくなっている工夫が見られる点も良い点として挙げられます。一方、課題としては児童の豊かな発想を引き出しやすい分、材料や用具を十分に準備する必要があり、低学年担任が指導するには準備が難しい題材もあるということです。

選定資料作成委員会では、学級担任が指導するには難しさはあるものの、図工専科の教員と十分に連携していくことで対応できるのではないかという協議がありました。

(意見・質疑の要旨)

富山教育長職務代理者 日本文教出版は、ただいまの報告にもありましたが、取り入れる題材に造形遊びがたくさん取り入れられています。造形遊びでは子どもの発想を膨らませていくことが非常に難しいと思います。その中で、子どもたちが自由に自分らしい発想を練り合わせて表出・表現をしていくことは難しさは残りますが、教科書の中ではそれを的確に表現していて工夫がなされていると思いました。また、児童の発達段階にあわせて制作過程や作品例を示すことで子どもの発想がより練られて深まってまいりますので、そういう部分を教科書が示しているところがとても良いと思いました。子どもたちが題材を見たときに、その題材を自分なりに捉えて自分の学びの先を少しずつ見ながら、批判的というのももちろん大事なのですが、共感的に見ていくという面で、その動作や変わった部分の写真がうまく配置されている点も子どもの発想を豊かにするのに役立っているのだろうと思いました。

もう1点は、補助資料が学年ごとに示されていて、子どもたちが図工の学びの中で定着させたものがさらに発展し生かされていくという発展的な部分も教科書の中によく配慮されていたと思います。以上から私は日本文教出版の図画工作を推薦いたします。

戸塚委員 私は、日本文教出版の図画工作を推薦したいと思います。

佐久間委員 私も日本文教出版の教科書を推薦いたします。

先ほど御紹介いただきました良い点について、私も同じ感想を持ちました。1点目といたしまして、児童作品の色や形が明るく、バリエーションが豊富で、立体や造形遊びでは共同で取り組むダイナミックなものが多く見られ、子どもたちのイメージが膨らむと思います。

2点目といたしましては、児童作品のほかにも創作のイメージを膨らませる資料が豊富にあるのも良い点ですが、そのうちの一つに3、4年生の下巻の後ろに「材料を見つけよう」というタイトルで、日本の伝統工芸品及び使われている材料を紹介するページがあります。自然の中にある材料を生かして、創作する、感性を育むのに大変効果的だと思います。

3点目といたしまして、唯一懸念されている学級担任が指導するには準備が難しいものが多いということです。確かに教科書の見本を見ますと、ダイナミックでかつ皆で取り組んでいるものが多いので、低学年については、先生方は大変ではないかという感じもいたします。しかし、専科の先生と連携をとれば対応可能とのことですので、ぜひ子どもたちの想像力、創作力を伸ばし、思い切り表現する喜びを体験させてほしいと思います。そのような理由で日本文教出版の教科書を推薦したいと思います。

大木委員 私も日本文教出版を推薦したいと思います。

理由といたしましては、先ほどからのお話にもございますように、制作過程や作品例が多く児童がイメージを持ちやすいという点、一方でそれに誘導されるのではなく、多様な

イメージを膨らませることができる課題が多いという点です。このような例示がたくさんございますと、おそらく先生方も御指導がしやすいのではないかと思います。そして、レイアウトが非常に見やすいという点です。そして「気をつけよう」というポイントが、全学年にわたって毎回書いてあり、安全面に十分配慮されているという点を評価いたしました。それだけでなく、特に高学年になりますと、例えば飾っても良い場所を確かめようといったマナーや作品は大切に扱おうという考え方が書いてある点も、非常に良い点だと感じました。これら全ての課題で注意することが記載されておりますので、先生方の方針に応じて、テーマを入れかえて進めることも可能だと思います。以上の点から、日本文教出版を推薦いたします。

教育長 皆様同意見ということでございます。開隆堂出版の教科書には、ふくべ細工が載っておりました。それを見て、6年生の移動教室でつくっている学校もあったなと頭に浮かんだのですが、私も日本文教出版の内容が非常に良いことを確認いたしました。

それでは、図画工作については、2番の日本文教出版「図画工作」を採択したいと思います。

(10) 家庭

(選定資料作成委員長からの説明)

選定資料作成委員長 家庭につきましては、1番の東京書籍が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、2番の開隆堂出版が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

東京書籍は、良い点として問題解決型の学習の例示が良く分かりやすいため、学習後に家庭でも実践しやすい点や、写真が実寸大のものがあり分かりやすくなっている点があります。また、情報量が多く、興味・関心を引き出しやすいという良さもあります。一方で、文字量が多いので、何が大切かすぐに判断できないという課題が出されました。

開隆堂出版は、良い点として作業手順の説明が番号で記載されており分かりやすいこと、指導者の説明も行いやすくなっていることや、他教科との関連学習や中学校へつながる内容が載っていること、作品例の写真が豊富であることなどの良い点があります。一方、問題解決型の学習「レッツトライ」の例示が1か所にまとまっているために活用しづらいという課題が出されました。

(意見・質疑の要旨)

戸塚委員 私は、結論としては選定資料作成委員会の検討結果のとおり東京書籍の教科書を推したいと思います。

佐久間委員 私も東京書籍の教科書を推薦します。

教科書を拝見しますと、実習の方法や手順が写真と文字でよく分かるように書かれていると思います。また、御紹介にありましたように、様々な情報が載っていて、子どもが好奇心を持って楽しく学べる内容になっていると思います。家庭に関連する日本の伝統を豊富に紹介していることや、それぞれの領域での「プロに聞く」というコーナーで専門家の話を読むことでより良く生活するための技術が先人から伝えられ、人とつながり、未来を豊かにすることを感じ取れるのではないかと思います。このような理由で東京書籍の教科書を推薦いたします。

大木委員 私も東京書籍の教科書を推薦いたします。

理由といたしましては、今回の御報告にもございますように「つかむ→調べる→やってみる→深める」という流れが統一されております。児童自身が今どのようなことを行っていて、今後どのように進めていくのかということを理解しやすいと思います。

もう一点といたしましては、家庭という科目は学習したことを家庭や地域で実践することが特に大切な教科だと考えております。東京書籍の教科書は、これを非常に念頭に置いた構成になっている点も魅力を感じました。以上の点から、私は東京書籍の教科書を推薦いたします。

富山教育長職務代理者 東京書籍は、生活の中で課題になっていくような消費者教育や、持続可能な暮らしをどのようにつくっていったらいいのかという、これから生きていくために非常に大事な視点がしっかりと位置づけられて学ぶ形になっている点に好感が持てました。そして、全てにおいて問題解決学習の構成がしっかりと示されていて、子どもたちがどのように学んでいったらいいのか、いわゆる「つかむ→調べる→やってみる→深める」ということを、どのように展開していくと良いのかという問題解決学習の学びの道筋がよく示され、分かるようになっている点も良いと思います。全ての教科においてですが、学んだことがただテストで100点とればいいというものではなく、それを生活に生かしていくあるいは互いの生活を豊かにしていくということ、しかもその豊かにしていくものは主体的な自分の解決能力であるというところが、非常に意識されてこの教科書が編さんされていると思いました。以上から、東京書籍の「新しい家庭」を推薦いたします。

教育長 皆様同意見ということで私も同じでございます。比較してみますと、写真やイラストはより分かりやすく、資料もより豊富だと感じました。作業をする上ではとても参考になると思います。問題解決的な学習の充実、さらには自己評価の欄もしっかりと示されている点も優れていると思います。

それでは、家庭については、1番の東京書籍「新しい家庭」を採択したいと思います。

(11) 体育（保健）

（選定資料作成委員長からの説明）

選定資料作成委員長 保健につきましては、4番の光文書院、5番の学研教育みらいが「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の東京書籍、2番の大日本図書、3番の文教社が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

東京書籍は、良い点として学習の進め方が四つのステップで構成されていて、1単位時間の学習が分かりやすい点があります。図や表、絵などの分量が非常に多く、他社の教科用図書に比べるとページ数が多いことが課題として出されました。

大日本図書は、良い点として「活用して深めよう」が各時間設定され、学びを深めるきっかけになる点があります。教科用図書がA4サイズよりも大きいことで扱いづらいことや、1時間の内容で資料等が少なく、授業を行う際に他の教材を用意するなど、工夫して指導する必要が出てくるという課題が出されました。

文教社は、良い点として一単元の学習の流れが明示されており見通しを持ちやすい点や、写真やイラストが分かりやすいことが挙げられました。内容が精選されていますが、ページ数が少なく単元によって資料が少ない単元があることが課題として出されました。

光文書院は、良い点として写真が多く実生活と関連付けて考えやすい点、大切な内容と補助知識が整理して配置されており学習内容と関連付けた知識が得られる構成になっている点等があります。一方、資料が豊富である反面、文章による説明が多く読みにくい面が

あるという課題が出されました。

学研教育みらいは、良い点として「つかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」という構成で、一単位時間の流れが分かりやすい点、学習を深めるための資料が多くあり、学びを広げるためのきっかけとなる点が挙げられます。反面、内容量が多いことで読みづらさがあるという課題が出されました。

(意見・質疑の要旨)

佐久間委員 私は学研教育みらいの教科書を推薦いたします。

ただいま、選定委員長から御報告がありましたとおり、大変優れた点の多い教科書と拝見いたしました。現在、使われている教科書でございますので、各学校の調査書をよく見ましたが、一単位時間の流れが「つかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」と本文で構成されており課題解決的なレイアウトとなっていること、写真や図、イラストなど資料が分かりやすくつくられていること、日常生活と保健の内容がよく結びつけられているなどの点で、全ての学校で良い評価となっていました。

内容について、実際に読んでみましても要点を押さえてそれぞれの発達段階にあわせて分かりやすく記述されていると思います。例えば4年生の「体の中で起こる変化」という単元では、学習の過程で折に触れて体の中で起こる変化には個人差があることに触れ、学習の結びにも「体の変化、一人一人ちがうね」と大きく取り上げて締めくくっています。また、5年生の「不安やなやみへの対処」では、様々な対処法を紹介した後、身近な人に相談しにくい場合などはほかにも相談できるところがあるとして、困ったときの相談窓口を紹介しています。その中で「地域の相談窓口を調べてみましょう」と記入欄を設けていることや、文部科学省の「24時間子供SOSダイヤル」にウェブサイトがあることも紹介するなど、思春期の子どもたちへのきめ細やかな配慮を感じました。以上の理由で学研教育みらいの教科書を推薦いたします。

大木委員 私も学研教育みらいを推薦いたします。

理由といたしましては、こちらの報告書にもございますように「つかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」という構成で流れが分かりやすいという点、各単元最後の「振り返る」で自ら書いて学びを深め、「つなげる」で実際の生活に生かしていくことが強調されている点が良いと思いました。また、それぞれの単元の中では、例えば4年生の第二次性徴の説明が非常に分かりやすい点、佐久間委員からもありましたように、個人差にも十分配慮した表現がなされている点が優れていると思います。

また、例えば5年生の「心の健康」におきましては、私の専門が心理学ですので特にしっかりと拝見いたしました。その説明の量、内容あるいは対処法の記載が、必要十分であると思いました。細かく書いてもかえって分かりにくいという点もございますし、少な過ぎても困ると思いますが、おそらく5年生の児童を対象として考えたときには、非常に適切であると考えました。以上の点から、私は学研教育みらいを推薦いたします。

富山教育長職務代理者 光文書院は、これから学習する内容について最初のページに4コマ漫画のストーリー形式で示してあります。これは子どもたちにとっては非常に親しみやすいのではないかと思います。また、社会状況や生活習慣などの変化に応じた健康や安全に関する課題を積極的に取り上げている点も良いと思いました。

学研教育みらいでは、一単位時間の学習課題を明確に示しています。児童がこの時間に何を学ぶのか、どのような学習過程を通してその課題を追究するのかがしっかり示されて

いて、その意味では主体的な学習が行いやすい教科書の編さんがされていると思いました。学びの中で考え判断するのに必要な資料が多過ぎるという指摘もありますが、それが的確にあるので、個人で追究する学びと、学びを広げあるいは深めるきっかけになっているのではないかと考え、この編さんの姿勢も良いと思いました。さらに、学びが定着していくためには、チェック表やメモ欄など感想を書くことによって、自分の学んだことが定着し、発展し、活用されていくことになりますが、その点にも配慮された教科書であると思いました。以上を総合しまして、学研教育みらい「みんなの保健」を推薦いたします。

戸塚委員 私も学研教育みらいを推薦したいと思います。

こちらの教科書は、現在も使われている教科書ですので、先ほど申し上げたとおり児童にとっても使いやすい教科書だと思っております。

教育長 皆様のお考えが一致されておりますが私も同様でございます。学研教育みらいは非常に先生方からの評価も高くなっております。それだけ使いやすく子どもたちの学びも定着しているということだと思います。

それでは、保健につきましては、5番の学研教育みらい「みんなの保健」を採択したいと思います。

(12) 外国語（英語）

（選定資料作成委員長からの説明）

選定資料作成委員長 外国語につきましては、2番の開隆堂出版、4番の三省堂、5番の教育出版が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の東京書籍、3番の学校図書が「国分寺市で使用するのに適当である」、6番の光村図書出版、7番の啓林館が「国分寺市で使用するのに適当には至らない」としました。

東京書籍は、教材「We Can!」と似ており今までの流れがある点、写真が豊富である点が良い点として出されました。一方で情報量が多く、体全体を使ったアクティビティが少ないことが課題として出されました。

開隆堂出版は、良い点として文字での指示は比較的少なくしており、絵で分かりやすいように工夫されている点がありました。また、文字練習のページが6年生後半に多くまとめられており、中学校へのなだらかな移行への配慮が見られたところも良い点として出されました。一方、カードがやや小さく扱いづらい点が課題として挙げられました。

学校図書は、良い点として各単元にリスニングのページが入っており、耳から入る活動を大変重視している点がありました。一方、教科書のサイズが大きいこと、情報量が多いため児童への負担につながるのではないかという課題が出されました。

三省堂では、良い点として各単元に「HOP」、「STEP」、「JUMP」の3段階が系統的に設定されている点や、国語で学んだ教材を英語で学ぶという工夫があり、子どもたちの意欲につながっている点が挙げられました。一方、絵や写真が多いため、扱う情報量が多く授業では扱いにくいという課題が出されました。

教育出版は、良い点として聞く活動が多く設定されていて映像資料も多い点、単元ごとの振り返りがあり学習の定着を図りやすい点がありました。一方、アニメ等の挿絵に違和感がある等の課題が出されました。

光村図書出版は、良い点として国際理解の視点があり外国についての情報量が多く、読み物としての楽しさがある点が出されました。一方、情報量が多すぎることで、授業の中で全てを扱うことはなかなか難しいのではないかという課題が出されました。また、4線

の中で真ん中の線を少し太くして小学生に書きやすい工夫を取り入れていますが、中学校に進学したときに修正することが難しいため、4線は同じ太さのほうが良いのではないかなという課題が出されました。

啓林館は、良い点として「Small Talk」というページが多くコミュニケーションの活動を取り入れやすいという点があります。一方、書く量が多いことや、比較的絵が中心で文字数を減らしているため、アクティビティを工夫する教員の負担が大きいという課題が出されました。

(意見・質疑の要旨)

教育長 もしかしたら行っている学校もあるかと思いますが、45分間ではなく、例えば15分といった短時間学習への配慮は教科書には必要なのかという点について、調査研究の中で御意見がありましたらお聞かせいただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

調査研究委員長(外国語) 調査研究の中では、特に短時間で複数日継続して行うような授業について検討はしておりません。しかし、どの教科書も非常によく検討されており、アクティビティ、リスニング、ライティングなどと区切って使うことはできるのではないかと考えられました。

教育長 全ての教科書について、そのような活用も可能であると捉えてよろしいでしょうか。

調査研究委員長(外国語) そのように思います。

大木委員 英語は、今回初めて正式な教科として取り入れられます。小学校で英語嫌いになってしまっただけは困りますので、楽しいと思える教科となるような教科書であるということに基づいて検討をいたしました。選定資料作成委員会で、非常に適当であるとされた3社のうち、2番の開隆堂出版と5番の教育出版で最後の最後までずっと迷っておりました。両者とも甲乙つけがたい大変素晴らしい教科書であると思います。

先に結論を申しますと、私は教育出版の「ONE WORLD Smiles」を推薦いたします。

開隆堂出版の「Junior Sunshine」は、特に良い点が3点ございます。まず、最初の「CAN-DOマップ」です。こちらによって目的やめあてが分かり、児童が非常にやる気を出しやすいだろうという点を評価いたしました。次に、学んだことのリストのチェック表が最後にあり、児童が自分の理解を確認できる点です。最後に、書くことに関しましては、カードに「I like」や「I can」がもともと印刷されており児童はそこに単語を当てはめていけばよいので、児童の書くことに対する負担感が少ないだろうと思ひまして、その点を評価いたしました。

選定委員会では、良い点といたしまして「文字に慣れよう」が後半にあるので、中学校へのなだらかな流れとして適当だという御意見でしたが、目次を拝見しますとそれぞれのところで、その文字の部分を同時並行で進めていく場合のページ数などの該当箇所が示してありました。もし併用する場合には、教科書を行ったり来たりすることが行いにくい場合もあるのかもしれないと思いました。それはそれぞれの学校や先生方の進め方によって異なると思いますが、少しその点が気になりました。また、導入部分でやや文字が多い点が気になりました。

それに対して教育出版では、5年の導入のLesson 1が非常に入りやすいと感じました。3、4年からの連続で「聞く」、「話す」ということがあって、その上で文字が追加されているという印象でした。非常にバランスがとれており、新しい教科、特に「書く」

ことの抵抗感が最初の段階で少ない印象を受けました。また、多くの他社でも工夫はなさっておりますが、特に、課題がゲーム感覚でできる楽しさを私はより感じました。発音でフォニックスを意識した点もあり、中学校への接続としても適切であるのではないかと思います。

課題として、アニメや実在の人物をモデルにした挿絵があるということでしたが、アニメは他社でも用いられておりますし、具体的なイメージが湧くので私自身は特に大きな問題は感じませんでした。また、巻末の書く活動のワークシートが多く、児童にとって負担が多いという課題の御指摘もございましたが、薄く文字が書いてありそれをなぞるというものになっております。なぞりながら文字を自然に覚えていくことは、まさに小学校1年生の平仮名のなぞりと同じではないかと思います。文においても「I c a n」や「I l i k e」などが薄く書いてあり、なぞることで次の学習につなげていくということですので、実質的にはそこまで大きな負担はないのではないかと感じました。

いずれも非常に魅力的な教科書で、とても迷ったのですが、以上の理由から私は教育出版の「ONE WORLD Smiles」を推薦いたします。

富山教育長職務代理者 教育出版は、映像資料が比較的多く用いられ、文字だけでなく映像を見ながら学べるため英語嫌いを意識した配慮がなされていると思いました。英語の場合は繰り返して单元ごとに振り返ることがとても大事にされていきますが、教育出版の場合には单元ごとに振り返りがあり、学びの定着に期待が持てると思いました。

三省堂は、5年生では「世界の挨拶」、6年生では「世界の街角」が巻頭にあります。英語学習の目的は、ただ英語を学ぶことだけではなく国際理解にあると考えます。単なる英米の英語ではなく世界英語という現在の英語の実態を踏まえながら教科書が始まっていることも一つの工夫であると好感的に受け止めています。また、「HOP」、「STEP」、「JUMP」という3段階で学ぶ道筋は、英語学習だけではありませんがとても大事な視点で編さんされていると思いました。

開隆堂出版では、一度教科書に出てきた英単語が再度出てくるという繰り返しをしています。英語学習は自然に繰り返す中で定着するという側面も否めませんので、それもやはり大事なことだと思います。次に、小学校は英語教育の場ですのでアクティビティが大事です。体などの五感を通して言語を文化として取り入れていくことが大事ですが、この学習活動が具体的に示されていることも開隆堂出版の良さではないかと思いました。3点目として、小学生の場合は文字だけで理解を深めていくことは、語彙が少ないため理解が難しい場合も出てくると思います。その部分を補完するように絵で分かるようにしていることは、小学校英語教育では英語嫌いをつくらない配慮がなされているのだろうと思いました。最後に、先ほどの報告にもありましたが、4Rのうちの文字練習を教科書後半にまとめていることは、4Rの文字から学んでいく中学1年生のような指導形態ではなく、「聞く」、「話す」を先に、文字を後半に学ぶことも英語嫌いをつくらない配慮の一つなのではないかと好感的に受け止めています。総合判断として、私は開隆堂出版を推薦いたします。

戸塚委員 2番の開隆堂出版、4番の三省堂、5番の教育出版、3社ともそれぞれ内容的には良いところがあり、私も本当にどれが良いのか迷いました。しかし、よく見ると開隆堂出版は巻末の付録が充実しております。特に6年生の教科書を見ると、巻末には「中学校への橋渡し」というコーナーがあります。また、5年、6年の教科書に共通しますが、その学年の1年間に学んだ英単語を単語リストで一覧にして検索できるようになっており

ます。さらに「発音クリニック」として、英語独特のイントネーションを強調したところがあります。このように開隆堂出版の教科書は付録が充実してこれから英語を勉強しようという児童にとっては、使い方によっては非常に良い教科書になるのではないかと思います。このような理由から、甲乙つけがたいのですが、私も開隆堂出版を推したいと思います。

佐久間委員 私は三省堂の教科書を推薦したいと思います。

教科書を見比べたときに、私は教科書が見やすく分かりやすい構成でつくられていると思いました。先ほどお話に出ていました「HOP」、「STEP」、「JUMP」という大きな流れと「STEP」内のレッスンの流れがパターン化されておりまして、取り組みやすいつくりになっていると思いました。「HOP」で見通しを立て、「STEP」で表現を学んだり練習をしたりしてコミュニケーションを行い、「JUMP」で実際の場面で表現するという流れです。この「JUMP」で目標達成に向けて活動して、クラス全体で学んだことの成果を感じられるようになっていくところが、とても良いと思いました。

次に、聞く活動としてストーリーのページがありますが、なじみのあるお話が取り上げられており絵も素敵なので、子どもたちのイメージが膨らみやすいと思います。

3点目としましては、5年生と6年生の両方に日本のことを伝える取組がありました。6年生に関しては、もう少し紹介例を挙げても良いのではないかと感じましたが、子どもたちにはぜひ日本や地域の良いところを紹介できるようになってもらいたいと思います。

4点目として、二次元コードが各所についていて、現時点では1か所の見本を聞くことができました。それを聞きますと、思わず発音してみたいくなる音楽でありリズムに乗って楽しく発音の練習ができそうだと思います。

5点目としまして、6年生の付録「言葉のお話」の中で、「どんな気持ちが込められている？ どうしたら気持ちが伝わるかな。」とあり、相手が何を伝えようとしているかを考え伝え合うことの大切さについて書かれています。このことは国語と同様に、外国語を学ぶ上で非常に重要なことだと思います。そのようなことが盛り込まれていることも考えまして、私は三省堂の教科書を推薦したいと思います。

教育長 御意見が分かれているところでございますが、私は結論から申し上げますと、開隆堂出版を推薦したいと思います。アクティビティは大切でありその活動例が非常に具体的に示されている印象を持っておりますし、そのことによって学習の流れを子どもたちがしっかりとつかめるだろうと思います。さらには振り返りのコーナーなどを活用しながら自己評価をして学びの定着が図られる点が優れていると思います。また、「読む」、「書く」ことも大切にされており、文字に触れようという特設のコーナーが設けられていること、あるいは5年生の最後のほうにはプログラミング教材なども入っていることも特徴的ではないかと思っております。

よって、開隆堂出版を推薦したいと思います。いかがでしょうか。大木委員、佐久間委員、よろしいでしょうか。

大木委員・佐久間委員 結構です。

教育長 それでは、外国語、英語につきましては2番の開隆堂出版「Junior Sunshine」を採択したいと思います。

(13) 特別の教科 道徳（道徳）

（選定資料作成委員長からの説明）

選定資料作成委員長 道徳につきましては、1番の東京書籍、2番の学校図書、3番の教育出版、4番の光村図書出版が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、5番の日本文教出版、6番の光文書院、7番の学研教育みらいが「国分寺市で使用するのに適当である」、8番の廣済堂あかつきが「国分寺市で使用するのに適当には至らない」としました。

東京書籍は、良い点として考えるポイントや主題名などが載っていて指導しやすい点、児童が興味・関心を持ちやすい教材を取り扱っている点がありました。課題として、内容や写真が古いとありますが、この点については以前からある名作を古いと捉えるか、良さとして捉えるか調査研究の過程でも両者の意見があったとのことでした。

学校図書は、良い点として「気付き」に焦点が当てられ、情報が整理されていて集中して学習に取り組める点や、別冊の「学びのノート」が評価に生かしやすい点があります。一方で、このノートについて書く分量の多さ、書くことが決まっていることによる扱いづらさが課題として出されました。

教育出版は、良い点として1時間の中で指導しやすい分量である点、学年ごとに全体のページ数が調整されている点、児童が興味を持ちやすい写真やイラストがありイメージがしやすい点等があります。一方、実在の人物を扱った教材がありますが児童にとってなじみのある人物であるかが課題として出されました。

光村図書出版は、良い点として児童に考えるときにヒントになり過ぎる文章を削除することで多様な意見が出やすい点や、多様な教材がバランスよく掲載されている点が挙げられました。一方で、文字の小ささや情報量の多さが課題として出されました。

日本文教出版は、良い点として「学習の手引き」を通して、主体的・対話的で深い学びが実現できる構成になっている点、「心のベンチ」という特設ページで考えを深めることができる点が挙げられます。一方、「道徳ノート」について書く分量が多く、使いにくい等の課題が出されました。

光文書院は、良い点として挿絵や写真が大きく効果的に挿入されており見やすさがある点、脚注が書かれている点がありました。一方で、教科書のサイズが大きいことで扱いづらいという課題がありました。

学研教育みらいは、良い点として現代的課題の取組についての教材が充実している点があります。一方、紙面が大きく情報量が多いため、児童にも指導する教員にも負担になるのではないかという課題が出されました。

廣済堂あかつきは、良い点として特定の価値観を押しつけないように、教材の冒頭に主題名が記載されていない点がありました。一方「道徳ノート」について、書く分量が多く、書くことが決まっていて扱いづらいことや、全体的に文字が小さく見づらい等の課題が出されました。

(意見・質疑の要旨)

教育長 「道徳ノート」がついている教科書とついていない教科書があり、調査研究の中ではそれがついていると扱いにくい、使いきれないということが課題として出されたという報告がありました。一般的に、授業の中では別のノートを活用しているケースが多いのでしょうか。どのような御意見が出されたのか、教えてください。

調査研究委員長（特別の教科 道徳） 教科書とセットになっている道徳のノートではなく、学校や学年で別のものを用意して使用方法や、ワークシートをその都度行って

つづっていく方法もあるようです。道徳のノートはまだ平仮名も学習していない1年生から書かせるという設定も相当無理があり、負担があるという話も出ました。

教育長 一律ではなく様々な工夫をされていると理解してよろしいでしょうか。

調査研究委員長（特別の教科 道徳） そのとおりでございます。

富山教育長職務代理者 まず、光村図書出版で良いと思いましたが、児童に人気のある絵本作家の題材などなじみの学習材が入ったことです。おそらく児童は興味・関心を抱いてこの学習材に臨むのではないかと思いますので良いと思いましたが、また、学習材ごとに考えよう、話し合おうなどと記されているので、児童が主体的に考えたり、判断したり、互いに聞き合ったり、学び合ったりしながら、深い学びが推進されるのではないかという良さを光村図書出版には感じました。

教育出版は、こちらでも学習材の終わりに「考えよう」、「深めよう」、「やってみよう」とあります。もちろん徳目の押しつけであってはなりませんが、学んだことをやってみようという形で学習を生活に生かしていく、いわゆる態度化という部分だろうと思いますが、それがなされていることが特徴ではないかと思いました。

学校図書の場合ですが、子どもたちがその学習材に向き合ったときに「なぜなのか」、「こういうことなのだろうか」という気づきがありますね。それをボトムアップして授業を展開するような教科書編制がされていることも良いと思いましたが。さらに教科書に「考えよう」、「話し合おう」といった発問が載っていることも、賛否両論あるとは思いますが、子どもの学習を支援するという意味では役立っているのではないかと思います。

最後に、東京書籍です。子どもたちが学びやすいように、先生方が指導しやすいように、考えるヒントや主題名が載っていることは好ましいことではなかつたと思います。子どもたちが理解するために必要なのは、もちろん文章や行間を読み取っていくことがとても大事です。しかし、国語の時間ではありませんので、イラストが非常に役立ちますし、そのイラストも的確なものが配置されていたのではないかと思います。また、ユニバーサルデザインの観点からは、教科書体の少し太目の字体がありまして、他の教科書と見比べてみて非常に読みやすいと私は思いました。さらに、巻頭部分は、これから1年間学ぶことについて、「自分自身を見つめて」、「人とつながって」、「社会とつながって」、「生命、自然、大いなるもの」という四つの視点でまとめてページが成されています。単にページをつなげていくということではなく、全体像として自分の生きる道として、その四つのジャンルがあることが非常に分かりやすくなじみやすいと思いました。また、記録する、振り返る、まとめるという学びの振り返りページも充実していると思いました。

それぞれ甲乙つけがたいですが、私は東京書籍の「新訂 新しい道徳」を推薦いたします。

戸塚委員 私も東京書籍が現在使用されている教科書ということですので、同書籍を推薦したいと思います。

佐久間委員 私は、光村図書出版の教科書を推薦いたします。

選定委員会資料の中にも優れた点が多く記載されておりますが、私も同感でございます。内容に関しまして感想を交えて申し上げますと、それぞれの教材のお話の中で、様々な状況の中で起こる子どもの心の葛藤や困惑が、巧みな文章と効果的な挿絵により本当に上手に描かれていて、読み手の気持ちが自然に引き込まれ、動かされ、考えてしまう教材がそろっていると思います。子どもたちがこれを読むことで、「こんなことあるよね、でも、ほかの見方はできないかな。」、「相手の事情や気持ちはどうだったのだろう。こんなとき

自分だったらどうするだろう。」と考え、おそらく友達の話も聞いてみたくなるだろうと思いました。このように子どもたちが内発的に考え、話し合うことで、考えを深め、多角的な見方を養っていくことが期待できると思います。たくさんある教材の中からそのような例を挙げると、5年生の「すれちがい」という教材です。2人の女の子の言い分が子どもの視点で見事に描かれていて、子どもたちも興味を持って読み、考えるのではないかと思います。

また、光村図書出版の道德の教科書全体から、大人が子どもをありのまま受け止め、見守り、一人ひとりを大切に育んでいこうという温かさや包容力を感じます。一例を申し上げますと、6年生の最初にあります「まどさんからの手紙——こどもたちへ」というものです。ありのままを受け入れられていると感じる中でこそ、子どもは自由に考え、のびのびと発言することができるのではないかとすることは、道德の授業を行う上で大切なことではないかと考えております。このような理由で、光村図書出版の道德の教科書を推薦いたします。

大木委員 私は教育出版を推薦したいと思っております。

理由といたしましては幾つかございます。1点目に、1年生の導入の部分で文字がとてもなく、児童がイメージしやすい構成になっていることです。

2点目といたしまして「考えよう」、「深めよう」という発問が適切で分かりやすく、発達段階に応じて児童が自ら考えを深めやすい構成となっていると思いました。

3点目といたしまして、学年最後の振り返りで、1年前の自分を考えたときに、この1年間での自分の成長を振り返り次の学年への目標を立てる構成になっております。特定の価値観を押しつけるのではなく、それぞれの個性を大事にした上で、自らの気づきや成長を大切にできる点が良いと思いました。さらに最後のところでは、保護者の一言欄もあります。私は先ほどから申し上げておりますように、家庭との連携を極めて重視いたしております。それぞれのお子さんが1年経ってこんなことを考えるようになった、こんなふう to 成長したということを、保護者の方と共通理解を深め、分かち合い、成長を喜んでいけるということは、非常に大切なのではないかと思います。

選定資料作成委員会の資料で、1年生にサッカーの澤選手はなじまないかもしれないと指摘がございましたが、この文章を拝見しますと、澤さんがサッカーと出会ったのが6歳と書いてありまして、まさにそのときの出会いからあのような素晴らしい選手になったということで、子どもたちのまさにこの時期の体験が将来につながることもあるのだという夢を持つ上で、私は適切な材料ではないかと考えました。

先ほどから委員の皆様がおっしゃっているように、ほかの教科書もとても素晴らしいと思いますが、以上の理由から私は教育出版を推薦いたします。

教育長 少し意見が分かれたようでありますが、教育出版には「新幹線開発物語」という題材が5年生にあり、国分寺市では大切な題材であると思いました。また、光村図書出版は非常に読み応えのある教材がそろっており、中学校でも光村図書出版を採択しているかと思いますが、これも捨てがたいと考えたりもしました。しかし、道德は新しく教科書採択を行ってまだ年数があまり経っておらず、内容もそれほど抜本的には改訂されていないように私はお見受けをいたしました。そのような中で、先生方からは使いにくいというような話は出てきていないように思っておりますし、また、年間指導計画の作成には非常に労力と時間が必要な部分もございます。このようなことから、東京書籍も非常に良い教材や新たなチャレンジするような教材も載っており、非常に良い教科書でございますので

こちらをしばらく使ってみてはどうかと思ったところでございます。

したがいまして、私としては東京書籍を推薦させていただきます。佐久間委員，大木委員，よろしいでしょうか。

佐久間委員・大木委員 結構です。

教育長 それでは、「特別の教科 道徳」につきましては，1 番の東京書籍「新訂 新しい道徳」を採択したいと思います。

(休 憩 午後 4 時26分～午後 4 時35分)

教育長 令和 2 年度使用小学校教科用図書の採択につきまして，確認をさせていただきます。

国語（国語）	・ ・ ・	光村図書出版「国語」
国語（書写）	・ ・ ・	光村図書出版「中学書写」
社会（社会）	・ ・ ・	教育出版「小学社会」
社会（地図）	・ ・ ・	帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」
算数	・ ・ ・	教育出版「小学算数」
理科	・ ・ ・	大日本図書「たのしい理科」
生活	・ ・ ・	啓林館「せいかつ」
音楽	・ ・ ・	教育芸術社「小学生の音楽」
図画工作	・ ・ ・	日本文教出版「図画工作」
家庭	・ ・ ・	東京書籍「新しい家庭」
体育（保健）	・ ・ ・	学研教育みらい「みんなの保健」
外国語（英語）	・ ・ ・	開隆堂出版「Junior Sunshine」
特別の教科 道徳（道徳）	・ ・ ・	東京書籍「新訂 新しい道徳」

（採決）

以上のとおり可決（全員一致）

教育長 各教科の調査研究委員の皆様方，お疲れさまでした。ありがとうございました。

3 議案第42号 令和 2 年度使用特別支援学級教科用図書（一般図書）の採択について ＜教育長提出＞

（議案の内容と説明）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第21条第 6 号に基づき，教育委員会で決定する必要がある。

關指導主事 市立学校における教科書の採択は，義務教育諸学校の教科用図書の無償に関する法律及び関連法規に則して行われます。次年度使用教科用図書の採択要項には，現在使用中の小・中学校特別支援学級用教科用図書のうち，一般図書（特別支援学校・学級用）については，特に支障があり，これより明らかに優れたものがある場合においては，採択替えを行うことができるとあります。

各校においては，5 月10日から 6 月28日までの間，来年度の一般図書について調査研究を実施し，7 月12日までに調査研究報告書を提出していただきました。7 月24日に開催した教科用図書選定資料作成委員会では，その報告書をもとに各校からの説明を行いました。

この後、選定資料作成委員会からの報告をさせていただきます。御審議のほどよろしくお願ひいたします。

教育長 それでは、選定資料作成委員長より選定の経過等について御報告をお願いいたします。

選定資料作成委員長 知的障害特別支援学級が設置されている第二小学校、第四小学校、第七小学校、第二中学校、第三中学校では、令和2年度に使用する教科用図書いわゆる一般図書の選定資料を作成しましたので御報告いたします。

各設置小・中学校とも、児童・生徒の障害の種類、程度、能力、特性に最もふさわしい内容のものであることを踏まえて選定資料をまとめました。また、可能な限り系統的に編集されており、教科の目標に添う内容を持つ図書であることや、上学年で使用する教科用図書との関連性も考慮しています。その結果がお手元の報告書に示されています。

なお、各学校の報告書の備考欄に丸印をつけていますが、これは令和2年度から新たに加えたものを示しています。また、この資料には一般図書以外に文部科学省の検定済教科用図書も記載してあります。

以上、各設置小・中学校で令和2年度に使用する教科用図書の選定資料については、全て適当であると判断しましたので、採択について御審議をお願いいたします。

(意見・質疑の要旨)

教育長 各学級で児童・生徒一人ひとりの実態に応じて、ふさわしい教科書を一般図書として選定をしていただいているということでございますので、その点を御理解いただければと思っております。値段が高いものもあるようですが、その児童・生徒にとっては大切なものであるということで選ばせていただいております。

(採決)

原案どおり可決（全員一致）

〔その他〕

な し

〔閉会〕

午後4時43分、教育長は閉会を宣言した。

署名委員

1 番

戸塚 晃

3 番

大木 桃矢

調製職員

日高 久善